

2020-11-

吉岡まちかど博物館 当面の事業戦略について (未定稿)

「村越さんのご提案」、大変素晴らしいと思います。

3.提案等

以上から、今回の市史編さん事業については市史編さんの基本方針及び現状と課題に基づき、

略

一委員として次のように提案するものである。

(1)市史編さん事業に係る史料の情報提供

略

(2)木下交流の杜歴史資料センター及び印旛歴史民俗資料館は、市史編さん事業により

略

(3)木下交流の杜歴史資料センターは、木下河岸歴史博物館でもある吉岡まちかど博物館を運営する木下まち育て塾と連携し、市史編さん事業に係る収集資料中、木下、木下河岸関係の史料を吉岡まちかど博物館に展示(主としてしてパネル展示になるが)し、市民団体連携による相乗効果を高める。

「市史編さんの基本方針」(8)、(9)

センター及び吉岡まちかど博物館の連携実施は、市民の来館を促し、センター及び吉岡まちかど博物館の一層のアピールと同時に、市民への編さん事業の大きな還元、かつ関心と呼ぶものになると思料する。(村越文、抜粋)

以下、(最初のメールコメント)です

市史編纂、史料アピールについての趣旨は十分理解できます。

そこで、歴史資料センターと吉岡まちかど博物館の施設運営(=まち育て塾)については、どのような関係、イメージなのでしょうか？

例えば、開館について、

そして、活動・事業運営の人材(=スタッフ)確保、研修

組織的な施設管理・事業運営(当面の事業戦略づくり)について

最適化された活動づくり

当然、所管の教育委員会との協議によるものですが、現行の吉岡まちかど博物館(=ま

ち育て塾)の体勢をそのまま、移行されるとは思われません。

そこで、

- 1、市行政所管の施設に位置づけるのか
- 2、民間施設を指定管理委託は不可 → 現状は協働事業(委託料) ← 社会教育的な「講座・講演活動」が主で、施設管理費は算定されていない。
- 3、従来の協働事業形態を改変し、充実させる(委託事業+補助・助成事業(この部分において、研究、協議する)。

すなわち、歴史資料センターの活動に協力し、史料解題の作業に参加し、市民への解説・PR活動を担う。

(2度目のメールコメント) ← 何回か書き加えています。

以上、雑駁ですが、特に3、のケースについて
吉岡博物館活動の今後を踏まえて

活動の内容(事業、方法、人材)について

きちんとした「事業計画」(=当面の事業計画・戦略)を用意し、提案していく。
現在、執行中の事業活動については、

講座、講演(社会教育)→企画、運営、実施

史料・研究(市史編纂)→研究調査協力

生涯学習→まちづくり活動(イベント等)→企画、運営等、参加

さらに、施設・組織管理 → 施設・総務・会計・広報・研修

を加え、体系化していく。

財務状態を把握 → 資金・財源確保 → 経営計画化を図っていく。

自主財源はもとより、公的助成、さらにボランティア収益化をも考慮した経営体制づくりを図ることが重要だと思います。

普段から考えなければならぬことなのでしょうが、村越さんのご提案とともに、みんな研究、活動していきましょう。

(村越さんからの返信メール)がありました

(略) 例会で報告してください

(再度、グループメール宛て、コメント) を送りました

「考えられる事業計画」

以上、特に 3、のケースについて 吉岡まちかど博物館活動 (=例会でまち育て塾運営) の今後を踏まえて

活動・運営の内容(事業、方法、人材=まち育て塾スタッフ)について

将来を見通した戦略的な「事業等活動計画」を作成・用意し、活動計算書 (=資金計画) と共に提案していく。

現在、執行中の事業活動については

事業等活動計画書

事業区分	活動形態	企画・計画	運営・方法	各、事業等	資金計画・調達
講座、講演(社会教育的事業)	企画、運営	郷土史、民俗・文化、自然学習等	特に木下河岸、吉岡家の歴史解説	前期講座 後期講座 夏期講座 冬期講座	生涯学習事業 (協働事業委託料)
史料・研究(市史編纂協力事業)	研究、調査発表	地方文書発掘、調査研究・解題、情報の発信	研究調査等研究図録の発刊 博物館だより、HP調製	文書の整理、講読、解題 ・吉岡家 ・宝田家 ・六軒A家	市史編纂事業協力 (助成・補助金)
生涯学習のまちづくり活動(イベント等)	企画、運営参加等	まちづくりイベント、見学会 講座・講演等 関係団体との連携、協力、参加等	蔵資料の展示解説・説明 川巡り・地域散策 (歴史・自然) 伝統行事・芸能、まちづくりイベント参加等	・資料展示 ・解説 ・吊るし雛 ・コスモス畑 ・蔵カフェ ・町家寄席 ・川巡り ・他、イベント実施、協力、参加	生涯学習まちづくり事業 (各、助成金、寄附金、協力金、活動収益金等)
施設・組織、管理運営事業 (総務・会計)	管理・運営	蔵施設の管理・運営 組織の総務事務	施設の管理運営 総務・会計・広報活動 会議・研修等	蔵の清掃・維持管理、修繕 広報(だより、図録、HP等) 会議・研修	施設・組織管理事務(会計) (会費、寄附金、協力金、公費助成金等)

非営利活動は、まず、社会・公共的な目的を果たす活動があつて、それを支えるボランティア活動、さらに活動を支援する・資金提供するステークホルダーのみなさんによる寄付・協力金によって支えられます。

ですので、果たすべき目的の活動・事業（支出）が先にあり、支援する資金（寄付・公的助成・自らの調達金等の収入）ということになります。

最終的には活動組織が、自らの力やステークホルダーの協力によって、自律的に活動できるようにするのが望ましいとされています。

別紙、**拡大様式の活動計算書**を参照ください。

こちらは、令和2年度のまち育て塾の予算書のデータを活用して「令和2年度 まち育て塾 活動計算書」（**予算書**）として調製してみました。

この活動計算書は、**4つの会計領域**を設けております。

- ・社会教育活動の主たる方法である「**学級・講座・講演等**」の**事業会計**、
- ・市史編纂事業を支援するため、古文書史料の解読、解題を通じ、学習で得られた情報を市民に発信する「**史料・研究・学習・情報発信**」の**事業会計**、
- ・市民の生涯学習を支援するまちづくり活動として、その企画・運営・参加を促す**諸々の活動の事業会計**、
- ・さらに「**施設・組織・総務・会計・研修**」に係る活動・事業項目を明確に示して、スタッフの研修や人材確保、組織の自立化を目指す「**施設・組織**」の**管理事業会計**、に区分しています。

事業運営（会計）のしくみ

それぞれの**事業ごと**に**人件費、事業費の支出**を見積もり、これを具現化する**資金計画（収入確保を）**を作成し、**収支バランス**を確保していきます。

これによって、**収入項目の委託料や助成・補助金・寄附金・収益の算定額を「見える化」**するものです。

併せて**事業の収益化**について、**への研究**を進めるものです。

当面は、**人件費支出**については、**ボランティア、労力奉仕**によるが、**実費弁償部分**につ

しかしながら、従来の収支会計と比較し、データにおける客観性を認めることが出来ます。

そこで、当面は、**総会認定の予算書＋活動計算書の補完資料**として、

今後の吉岡まち育て塾の活動計画を作成する上での、**財政的な論建での根拠**を持った活動計算書づくりに活用できると思われれます。

まち育て活動計算書(予算案)

ここに、まち育て活動計算書(予算案)を提示します。

仮に、今年度、予算どおりに事業計画が執行された場合、
一時的な資金繰りとして、

- ・ 市史編纂協力事業において、60,000 円
- ・ 生涯学習まちづくり支援事業、140,000 円

これらの事業について、予算当初から資金ショートしますので、その都度、会計調整をされますが、

仮に決算時に不足分を調整した場合、
施設・組織管理事業会計から、200,000 円を補填することで、
無事、決算調整が果たすことが出来ましょう。

当該予算計画は、本年度総会において、承認された「予算書」を

→ 活動計算書として読み替えています。

この計算書を、じっくり眺め、適正な事業計画を作るとしたら、

先の市史編纂協力事業と生涯学習まちづくり事業について、適切な資金計画を作り、財政計画を立直すことが重要課題です。

ここまで、いろいろ書いてきましたが、

コロナ禍で閉塞するまち育て活動を、何とか元気に、そして新たなテクノロジーを活用し、活動をダイナミックにすすめ、

新たな体制を構築することによって、市民による**印西市の生涯学習のまちづくり**に貢献できれば幸いに存じます。

行政サイドも、民間の団体に対する支援活動については、従来の公共活動のうち、民間に任せるものは積極的に任せ、支援していく施策が一般的になってきております。

そういう意味で、まち育て塾は、行政との協働を積極的に果たし、

具体的には、村越さんの提案された**市史編纂事業への協力体制**を具体的に築くため、**事業計画として 吉岡家文書追記の講読**から、

古文書の整理や、解説・解題から得られた情報を市民のみなさんと共に学び、教え、学習するために、

例えば、発掘現場に協力する、資料館のインタプリテーション、古文書の解説講座・学習会などの開催、支援・協力など、

吉岡まちかど博物館が担える活動を明らかにし、**歴史資料センターとの協働事業**を担っていきたいと思います。

(現在状況において考える)

また、今日のコロナ禍、集合三密を避け、参加者の安全を確保するため、インターネット等リモート環境を活用し、活動の情報サイト（HP／メール／ブログ）とする**活動基盤**（プラットフォーム）を確立し、事業運営の最適化を図り、適正な予算執行・事業推進をしてまいりましょう。

このようなプラットフォーム確立への投資、すなわち、情報リテラシー・技術、会計の確立が重要かと思えます。

ある程度の専門家の指導を受けることが必要ではないでしょうか。← 研修として行う。

上記提案は、積極的な試行でいいと思います。すでに試行中。

従来、スタッフ個人の努力として行われているものですが、
苦勞してもできたという実績を積み、
行政との協議案件、予算づくりに反映されていく、と思われま。

今のところ、育て塾の財務基盤は行政からの協働事業（委託料）で、運用（会計の入り繰り）で、他の資金と併せて個々それぞれの事業をやってきました。会計係の經理のテクニクに依存していました。

（歴史資料センターへの協力事業を樹立する）

今後は、村越提案によりまして、歴史資料センター事業に協力する態勢を築き、
すでに、古文書追記講読＋小池さん活動が動き出しました。
これをきちんと事業化する。→ 「古文書学習講座」として事業化する。

さらに吉岡まちかど博物館の運営スタッフの研修や組織の自立活動を図るべく、組織の管理・運営事業（会議・会計・広報・研修）として位置づけていくものです。

私事、3年にわたり監査を担当させていただき、スタッフの皆さんの実践活動について金額数値の面から活動を評価する機会をいただきました。

従来の収支会計 →事業仕分け、会計仕訳を取入れ、→活動事業・会計の見える化を図り、→財務資料 としてアカウントティングしてきました。

実際は、会計さんが調製した「決算書」についての計算チェック（事業仕訳、科目分類集計等）しました。（別紙）

まだ十分とは言えませんが、スタッフを始め、関係者に積極的に会計情報を開示し、今後の運営計画や資金対応の拠り所の資料としてまいりたいと存じます。

普段から考えなければならぬことなのでしょうが、村越さんのご提案にあらためて敬意を表するとともに、その構想・事業の具体化・実現、させるために、みんなで研究、活動、協力体制を築いていきましょう。

追伸：

Nifty ブログサイトに仮の「まち育て塾ぶろぐ」を 設置してみました。

例会の報告や、普段の事務連絡、提案、報告など、アップしていきたいと思います。
ちなみに、村越提案、当該レポート、活動計算書等、所見をアップしてみました。
また、活動計画書・活動計算書との関係についての解説しました。

追記

松戸市の幸谷地区に「関さんの森」ミュージアムという活動があります。

木下の吉岡の蔵保存活動とほぼ時期を同じくした市民活動があります。

すでに、何度か活動を紹介をしました。

その活動は、関さんの森の自然環境保全と残された蔵等の歴史資産の保存・展示・古文書の解題 を主に担っています。

こちらも、歴史資料については、松戸市の歴史博物館の支援を得ながら資料の保存や、解題・解説を行っており、一部公費の助成(史料整理)をいただいている。

木下吉岡家の文書については、すでに印西市の歴史資料として整備され、市民に公開されています。

歴史資料の展示については、歴史資料センターが整備され、
と同時に、展示資料の解説がなされています。

今回、村越さんは、市史編纂委員の立場も兼ね、歴史資料センターが所蔵する古文書や関係資料の原本、ないし原典を直接、市民に公開し、歴史研究の学習機会を確保しようという趣旨の提案です。

どの市町村も、市史編纂作業においては、原典資料の紹介を兼ねて、「古文書講座」を開いて史料の公開をしますが、

ある程度編纂が進むと、書庫に収めた状態になってしまいます。

本来の歴史学習の醍醐味は、原典資料に直接触れ、解題してこそ、学習の喜びを味わえます。

是非、保存資料を再び、市民に開示し、資料の解題等の情報を発信する機会を実現させ、

当まち育て塾としてもこれに積極的に協力し、新たな情報を市民のみなさんに発信していきたいと思えます。

こういう意味で、まち育て塾としては、今までの活動を踏まえ、新たな活動へのステップとして、また、まち育て塾の将来への存続として、事業への助成、協力をお願いするものです。